

2022年度入社式について

2022年4月1日
公益財団法人鉄道総合技術研究所

公益財団法人鉄道総合技術研究所（以下、鉄道総研）は、以下の通り「2022年度入社式」を行いましたのでお知らせいたします。

鉄道総研は、2022年4月1日（金）10時から、国立研究所において、「2022年度入社式」を行いました。

入社式では、役員立ち会いのもと、渡辺郁夫理事長から新入職員16名一人一人に辞令が手渡されました。引き続き、理事長から新入職員へあいさつがあり、それを受け、新入職員を代表して赤塚洋介が答辞を述べました。



写真 理事長から辞令を受け取る新入職員

理事長あいさつ要旨

16名の皆さんを本日、鉄道総研に我々の仲間として迎えることができ、大変嬉しく思います。

新型コロナウイルス感染症は未だ収束せず、また、3月16日夜の福島県沖地震では鉄道に大きな被害が発生するなど、鉄道事業においては厳しい状況が続いています。しかし、私たち鉄道総研は、「革新的な技術を創出し、鉄道の発展と豊かな社会の実現に貢献します」というビジョンのもと、鉄道事業に関わる多くの方々への負託に、技術力でしっかりと応えるべく活動をしているところです。

研究開発では、「安全性の向上、特に自然災害に対する強靱化」、「デジタル技術による鉄道システムの革新」、「鉄道の脱炭素化に関する研究」などに重点を置きつつ、鉄道総研の強みである広範な研究領域をカバーする研究開発を進め、鉄道の将来に向けた研究開発、実用的な技術開発、鉄道の基礎研究を研究開発の3つの柱に設定し、推進しているところです。

皆さんは本日より鉄道の研究開発の専門家として仕事をしていくこととなりますが、まずは鉄道の現場をしっかりと見てほしいと思います。鉄道の技術的な課題の多くは、鉄道の現場にあります。鉄道における仕事のやり方、導入されているシステム・技術がなぜそうなっているのか、さらに改善すべきことがないかなど、問題意識を持ってください。そして技術の本質を見極める力を養ってほしいと思います。

仕事を進めるにあたって、いつも私が職員に申し上げていることがあります。第1は何事も前向きにとらえ、取り組んでいただきたいということです。仕事を進める上でいろいろな制約・課題も発生してくると思いますが、そのような制約・課題をどうしたらクリアできるか検討するとともに、それは自分が活躍できるチャンスだと、前向きに考え、取り組んでほしいと思います。

第2は変えること、変化を恐れないということです。現在、鉄道を取り巻く環境は



写真 新入職員へあいさつする渡辺理事長

かつてないスピードで変化しています。常に問題意識を持ち、改善すべきとこと、新たに取り組むべきことを見つけ、スピード感を持ってそれら課題に取り組んでいってほしいと思います。

第3は情報共有です。課題の解決においては、いろいろな視点で検討することが大切です。これから配属される研究部、他の研究部・関連部門のメンバー、そして他組織の方々のいろいろなコミュニケーション・意見交換をしながら、仕事を進めていってほしいと思います。

皆さんがこれから取り組むべき課題はたくさんあります。鉄道総研にはそれらを解決できる人材がそろっています。多くの仲間とともに、これまでの考え方・やり方を踏襲するだけでなくチェンジを試み、また新たな研究分野へ果敢にチャレンジし、鉄道の価値を高める研究開発、鉄道の未来を創る研究開発に取り組んでいきましょう。

皆さんのこれからの活躍を期待しています。ともに元気に頑張ってください。

新入職員代表者答辞要旨

本日は、私どものためにこのような立派な入社式を開催していただき、誠にありがとうございます。新入職員一同を代表し、心より御礼を申し上げます。

ただいま、理事長より心温まる歓迎と激励の言葉をいただき、深く感銘を受けるとともに身の引き締まる思いでいっぱいでございます。私どもは、本日より公益財団法人鉄道総合技術研究所の一員として皆様とともに働けることを、誠に光栄に存じております。

本日賜りました言葉を胸に、大きく変化する社会情勢の中で、人々の生活に豊かさをもたらす鉄道の役割を考え、社会と鉄道業界の発展に貢献できるよう、邁進していく所存です。

しかしながら、私どもは若輩ゆえ、至らぬ点多々あるかと存じます。鉄道総研の名に恥じぬよう日々精進し、一研究者、一社会人として着実に前進して参りたいと考えております。どうぞご指導、ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。

以上、簡単ではございますが、答辞とさせていただきます。本日は誠にありがとうございました。



写真 答辞を述べる新入職員